

ハート・オブ・ゴールド

通信



vol.39

2018年7月12日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市北区西幸川 895-7
レジデンスアロー 101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail:hginfo@hofg.org

URL : <http://www.hofg.org/>



車いす選手



義足選手



ファンイベントでのダンスタイム



教育青年スポーツ省セアン・ボラット事務次官よりメダル授与

第2回カンボジアパラ陸上競技会を開催

プロジェクト・アシスタント 米山 遥香

2018年3月10、11日の2日間、オリンピック・スタジアムにおいて、カンボジアパラリンピック委員会(以下、NPCC)とハート・オブ・ゴールド主催の第2回カンボジアパラ陸上競技会を開催しました。

JICA【大学連携】筑波大学(短期ボランティア)カンボジア派遣として、筑波大学から大学院生1名、学群生3名が派遣され、またメコン大学日本語ビジネス学科から2名のインターンを受け入れ、NPCCスタッフと協力しながら競技会の企画運営を行いました。

競技会にはパラ陸上選手28名(立位選手23名、車いす選手5名)が参加しました。選手は視覚障がい、知的障がい、四肢切断、車いす等、障がいの程度によって細かくクラス分けされており、全8クラス、それぞれ100m、200m、400m、800m、1500m、走り幅跳びの6種目を設定し、1人最大3種目まで出場可能としました。

今回は初の試みとして競技会初日の競技終了後、障がいのある子ども達のためのファンイベントを開催し

ました。パラ選手の走っている姿を見てもらうことで子ども達に夢と希望を与えられる機会となり、またレクリエーションに参加してもらうことで、スポーツや体を動かすことの楽しさを体験してもらうことを目的としました。カンボジアの障がい者支援を行う団体に参加を呼びかけ、バットンバン州から1団体、プノンペン市内から2団体の合計69名(ス



競技会終了後の集合写真

タッフ・保護者含む)とパラ陸上選手、応援に来てくれた他競技のパラ選手や競技会運営スタッフも参加し、合計146名が2グループに分かれ、だるまさんが転んだ、手つなぎ鬼、しっぽ取り、玉入れ等のレクリエーションを楽しみました。

参加していた子どもの一人は実際にパラ選手の競技用車いすに試乗さ

せてもらい、将来は選手になりたいと話していました。

今回の競技会は筑波フューチャーファンディング(筑波大学生によるクラウドファンディング)で集まった資金とOUTSOURCING(CAMBODIA). Inc様、Active People's Microfinance様の協賛により実現しました。閉会式には教育・青年・スポーツ省のセアン・ボラット事務次官も出席し、メダルの贈呈を行いました。また、優秀な成績を残した選手にAP賞としてActive People's Microfinance様から景品の贈呈がありました。

国内大会が少ない中、この競技会を継続して開催していくことは選手のモチベーションアップにも繋がり、目標をもって日々の練習に取り組むことができるようになるため、今後もNPCCと協力しながら将来的に自立開催ができるように、ハート・オブ・ゴールドはサポートしていく予定です。

第3回大会へ向けて協賛企業の獲得、観客動員数増加のための工夫など、スタッフと話し合いながら、より良い競技会づくりを目指します。

ハート・オブ・ゴールドは本年20周年を迎えます。会員募集中!

「カンボジア王国中学校体育科教育指導書作成支援・普及プロジェクト」

指導書（教員用実技書）を作成するということ プロジェクト・マネージャー 西山 直樹

2017年1月から開始した本プロジェクトも1年経ち、2018年1～6月はカンボジア教育・青年・スポーツ省（以下、教育省）の技術委員会メンバー（以下、TC）が黙々と指導書のドラフトを作成するという期間でした。ワークショップ等があまりない静かな期間ですが、この間の課題・問題は様々でした。

2017年12月にTC達は中学1年生の初稿を提出していました。ある程度フォーマットを決めていたにも関わらず、提出された各領域・種目の内容は「ばらばら」でした。プロジェクト・マネージャーとして、この「ばらばら」がとても役に立ちました。TCが12名もいると、12名の知識には差が出てきます。全員が一緒だと、知識を持っているTCの意見に流されて、理解していないTCは理解した振りをしてしまいます。各人に領域・種目を担当してもらい、各々の理解に基づいてドラフトを書いてもらうことで、一人ひとりの理解度を確認することができました。

2018年1月に、当初は予定していませんでしたが、TC達と個別に協議することにしました。各々の意見の違いや考え方を聞き出すことによって、どのように修正していく必要があるかを各人と確認し合いました。一人ひとりの意見が聞き出せたのは良かったのですが、中には、個別に何を話しているのかと、疑心暗鬼になる人もいました。今回の個別協議の趣旨をしっかりと説明し納得してもらえました。

2018年2月12日～14日に東京学芸大学の鈴木聡准教授を招聘し



バサック中の先生が作ったラケットと卓球台

て、指導書作成ワークショップを開催しました。このワークショップにより、TCが全員で改めて協議することができ、これからの改訂方法について共通認識を図ることができました。また、お互いが現時点での指導書案の違いを認識し、同じ書き方で改訂をしていくべきことを一緒に考えることができました。このワークショップ後、5月18日までに中学1、2、3年生の全ての指導書案を提出することを目標としました。

3月には、プノンペン市、バットアンバン州、スヴァイリエン州のモデル中学校のモニタリングを実施しました。先生達は、指導書のドラフトを用いながら、必死に年間計画、単元計画、指導案を作成して授業をしていましたが、指導書の内容を間違えて理解したまま作成した先生もいました。一方で、スヴァイリエン州のバサック中学校では、指導書に従い、先生が自分で学校にあるもので卓球台と卓球のラケットを作って授業をしていました。教具がなくても新しい体育を進めていくことができることを改めて証明してくれました。

全学年の指導書案提出目標だった5月18日の時点で提出された指導書案はまだ20%程度でした。日本体育大学の岡出美則教授を招聘して5月21日～23日に開催したワークショップで、全学年の内容を確認したかったのですが計画を変更し、各領域・種目間の書き方の相違の確認、「態度・協調性」を教える際の教師行動、学びのための評価、導入すべ



岡出教授（日体大）のワークショップ

きイラストの留意点といった内容にしました。技能面は目に見えますが、「態度」や「協調性」を評価するのは難しく、1クラス約40人の授業で全生徒の成長を評価するには工夫が必要であり、技術が必要です。それをどのように指導書に書き込んでいくかをTC達は熱心に考えていました。

2018年9月。指導書の完成を目標としている月までに、できる限り、現場で体育を教えている先生達にとって分かりやすい指導書を作るため、プノンペン市、バットアンバン州、スヴァイリエン州で指導書を紹介するワークショップと、TCメンバーに対する3回のワークショップの1回1回に、適切な情報を収集し提供していく必要があると思っています。プロジェクトに関わる全てのメンバーが、「カンボジア全国の中学生達が体育を通して、態度・知識・技能・協調性を学べるよう、分かりやすく、読みやすい指導書を作成する」ことを共通の目標として、2018年後半はとても充実した半年となることを期待しています！



ポントラバエク中（プノンペン市）で陸上競技のモニタリング



鈴木聡准教授（東京学芸大）のワークショップ

教育・青年・スポーツ省年次総会（3/19-21）で西山所長が発表

年次総会での登壇も3年連続となり、HGの体育科教育支援事業が国の政策として重要な役割を担ってきていることがわかります。

今年は、カンボジアの体育教育が、昨年7月13日～17日に開催された第6回体育・スポーツ大臣会合（MINEPS VI）において採択された3つの観点（①全ての人々がスポーツ、体育、身体活動に参

加するための包括的なビジョンの開発、②スポーツの持続可能な開発への最大限の寄与、③スポーツ統合の保護）に従った内容で開発されていること、同会合において松野文部科学大臣（当時）が教育・青年・スポーツ省とHGの共同事業を全世界に発信したことを共有しました。

カンボジアの体育の開発は当会

が支援を開始した2006年に始まりましたが、今ではUNESCOが提唱するQuality Physical Education等も参考にしており、学習指導要領や指導書の内容がしっかりカンボジア全土の子ども達に教えられ、カンボジア国内だけでなく、アセアン諸国や世界にも発信していくことが重要だと話しをしました。

HGと共に体育科教育支援事業に携わったカンボジア教育省担当官の声

プラム・ブンジー （教育省顧問）

この事業のおかげで、カンボジアの教員と生徒が体育について理解し始めたことが大きな成果です。体育は他の教科と同じく、学ばなくてはいけないし教えるべきではない教科であり、各々の能力に



沿って選ぶスポーツは異なるものです。今後は、学習指導要領と指導書を現場で実践する人を増やすこと、そして実践しようという意欲を高めることが最優先課題です。

マン・ビボル （学校体育スポーツ局副局長）

元々国語の先生で、体育はスポーツだと思っていましたし、バレー選手だったので、アタックやパスなどの技術ができるようになることが重要だと思っていましたが、この事業で小・中の学習指導要領と指導書を作成する中で、技術だけではなく、教員と生徒が「知識・態度・協調性」も考えることが大事だと思うように



なりました。この経験が、高校体育の学習指導要領や教員養成校の指導書、運動会のマニュアルを作る上でとても役に立っています。今後も、ワークショップやモニタリングなど、体育を広めていくために、HGと協力してやっていきたいと思っています。

パラ陸上選手の声

ヴァン・ヴォン（車いすランナー）

2017年11月に岡山市での車いす陸上トレーニングキャンプに参加し、体力作りのための食事、筋力トレーニング、時間をきちんと守ることができると、多くのことを学びました。カンボジアでは練習場所が少ないこともあり、パラリンピック選手だけでなくオリンピック選手も一緒にトレーニングしているため、ぶつからないように常に気をつけてはなりません。

カンボジアに戻ってから日本で学んだトレーニングを実施していま

す。例えば、ウェイトトレーニングを行う際は日本で使用したトレーニング機材はカンボジアにはないので、自宅に自分でコンクリートを重りにしてトレーニングマシンを作りました。そのお陰か、2018年3月のパラ陸上競技会では去年よりも1秒速く走ることができました。

カンボジアではなかなか道具が手に入らないので、タイヤや競技用車いすなどが壊れてしまうと競技を続けられなくなってしまうかと心



配しています。

私の現在の目標は2020年東京パラリンピックに出場し、良い結果を残すことです。これからも一生懸命トレーニングに取り組み、強い選手になりたいと思っています。

ニューチャイルドケアセンター (NCCC)

シニア・アドバイザー 村上貴美子

高校2年生を筆頭に4歳までの16名(女子10名 男子6名)が、家庭的な雰囲気の中で、仲よく楽しく元気に過ごしています。

1月には岡山学芸館高校・清秀中学の生徒さん達が訪問。洗濯板を使って一緒に洗濯した後、「紙トンボとぼし」や「人間すごろく」など、時間を忘れて熱中しました。岡山市立第三藤田小学校とは、今年もスカイプを通じた交流をしました。カンボジアではすいかとマンゴーを野菜として食べるんですよとお伝えすると、びっくりされました。

2月からは在宅学習の方向性を話し合い、カンボジア人としてカンボジアで生きていくための最重要課題であるクメール語の「読み書き」を最初に行うことにしました。その結果、嬉しいことに、徐々にではありますが、成績が上がってきています。

3月、日本から大学の先生が2名

訪問されました。25日、子ども達の社会教育の一環としてプレアヴィヒア(世界遺産)見学に行きました。



4月、クメール正月に、久しぶりに子ども達の「里帰り」(写真)を実施しました。子ども達はもちろん、保護者の方々も「今年は2回あるんですね」と嬉しそうでした。子どもたちと保護者の絆は大切にしていきたいと考えています。15日はお寺詣でをし、帰宅後、「みずかけ遊び」をしました。子どもも大人も一緒になって我を忘れたひと時でした。NCCC 卒園生が遊びに来てくれました。卒園生が気楽に里帰りできる施

設にしていきたいです。

5月、大変な月でした。上旬に大雨・落雷に遭い、一晩中真っ暗闇で過ごし、翌日は、飲料水をチェイ小から、生活用水をNCCC スタッフ宅から汲んでこなければなりません。この問題が解決した矢先、再び大雨・暴風で屋根瓦が飛ばされ、男女の宿舍棟が被害を受けました。今のところ応急処置により安心して過ごしていますが、建築して10年近く経ったので、今年は改修工事に取り掛からなければと考えています。いつにも増して皆様のご支援に感謝いたします。今後とも子ども達を温かく見守ってください。

赴任の挨拶 村上貴美子

2017年12月に着任しました。自らの第三の人生(第一の人生:公務員、第二の人生:大学教授)として、この半世紀の経験を活かすことができると願っています。国際協力の現場経験は初めてですので、ご指導・ご鞭撻よろしくお願いいたします。

シェムリアップ日本語教室

京都民際日本語学校所属 HG 日本語教師 渡邊 格

BBU 大学 日本語講座

アンコールワット遺跡があるシェムリアップは観光産業に従事する人が多く、BBUで日本語を勉強している学生もホテルやレストランなどで働いていて、観光に来る日本人とコミュニケーションが取りたいと思って日本語を始めた人がほとんどです。一方で、シェムリアップには観光以外の産業が根付いておらず、カンボジアの最貧州の一つにとどまっています。学生達は僅かでも給料が高い仕事に次々と転職していくことが普通で、シフトの時間が変わったりと仕事が忙しくなったりして、日本語教室を続けることが難しくなる人もいます。なんとか彼らが日本語を学び続け、日本語を仕事に活かしていけるような新しい日本語教室のあり方を模索しているところです。

現在3つのクラスで週3回、1回1時間勉強しています。文法だけで

なく、漢字、聞き取り、会話、あるいは日本の文化についても理解してもらおうと、折り紙や日本の映像なども見せています。学生達は皆いつか日本へ行ける日を夢見ながら頑張っている。彼らの将来が明るくなるように願いながら、教師の側も一生懸命教えています。

カンボジア人の日本語教師の養成も行ってきた結果、今では初級の日本語は問題なく教えることができるようになり、今年の日本語能力試験ではN2レベルとN1レベルを受験する予定です。学生たちの目指すべき理想となって欲しいと思います。

チェイ小学校 HG 日本語教室

9名(うちNCCCの子ども達6名)が毎日勉強しています。文法も教えますが、まずは日本に親しんでもらおうと、日本の昔話の読み聞かせや日本の児童向けアニメを見せたりし



カタカナを覚えるためにみんなでカルタ遊び

ています。また日本の伝統的な遊びなども紹介し、「けいどろ」「いろおに」など外での遊びや、カルタ取り、折り紙、お手玉などもしています。ノッチさん、ティアラさん、ナモイさんの3人の先生が交代で教えています。子ども達にもいつか日本へ行ける日が来ることを願っています。



日本の昔話「カチカチ山」のアニメを見えています

TAO 東洋医学研究会副会長 久保 茂正

HG デンタル班は、TAO 東洋医学研究会（1986 年発足）という歯科分野で東洋医学を学ぶ者が集う研究グループを母体とし、HG スタディツアーでボランティアを申し出た有志で構成されています。2014 年に 3 名で始めた活動も、徐々に人数が増え、2017 年は 14 名（椋梨、倉橋、岡、石井、上垣、佐藤、神谷、阿部、山林、貴志、河合、穂積、長尾、久保）になりました。



HG デンタル班 2017

2017 年は、ツアー 2 日目午後 NCCC で歯科治療を行いました。ツアー参加者が子ども達からアブサラダンスの歓迎を受けている間に診察準備です。多目的図書室に、即席のデンタルチェアを 2 台準備しました。歓迎式典後、手の空いた子ども達から診察場へ。最初に一眼レフカメラで噛み合わせや口腔内状況の記録をとり、口腔内診査へ。そしてむし歯治療や抜歯処置、歯石除去、染色による歯の汚れの診査と歯みがき指導を行いました。これまでの歯みがき指導と治療の効果はてき面で、年長者になるほどむし歯が少なく、処置が必要な歯も少なくなっています。食後の歯みがきはきちんと習慣付いているようです。午後 5 時頃に無事歯科治療が終了しました。

ツアー 3 日目は、チェイ小学校で、チェイ幼稚園児 99 名とチェイ小学校児童 558 名の合計 657 名の歯科検診と歯みがき指導を行いました。毎年、まず、歯科検診の意義を校長



チェイ小学校で歯科検診

はじめ教職員の先生方に説明することから始まります。日本ではおなじみの集団検診ですが、カンボジアではまだ保健の概念がなく、学校で検診を行う意義がなかなか理解してもらえません。「検診結果がわかってどうするのか？」と聞く先生もいました。健康の保持と増進のため、健康教育のため、疾病のスクリーニングのため、学校という集団で行うことの意義を説明し、理解してもらいました。カンボジアは校舎と教員数の不足で、午前クラスと午後クラスに分かれて授業をしているため先生の顔ぶれが異なるので、同じ内容の説明を 2 回しなければなりません。検診は青空の下、木陰で 2 人一組 5 グループに分かれ同時進行で行いました。3 枚綴りの歯科検診票を作り、学校、児童、日本への持ち帰りとしています。

2 名の歯科衛生士が、ドクターと 2 人一組になって各教室を回り、エプロン型の媒体を使って歯みがき指導をしました。



教室を回って歯みがき指導

2016 年に好評だった「歯みがきサンバ」の動画を、持ち込んだ PC とプロジェクターで映し出し、音楽に合わせて鏡を見ながらブラッシングをしてもらいました。午前中は、スタディツアー参加者 11 名がボランティアとして、各教室で子ども達へ歯ブラシや手鏡、磨き残しチェックのための歯垢染色剤の配付、紙コップへのうがい用水道水の配給と洗口後汚水の回収などをして下さり、大変助かりました。

今回の検診結果を過去と比較して以下に示します。

世界的なむし歯の評価基準に DMFT (1 人平均むし歯数) があります。D (未処置う蝕歯) と M (喪



鏡を見ながらブラッシング

失歯) と F (う蝕が原因で処置された歯) の総和を人数で割った数、つまり 1 人当たりのむし歯経験値です。2015 年：幼稚園から小 6 まで 対象者 680 人の DMFT = 7.4
2016 年：幼稚園から小 6 まで 対象者 654 人の DMFT = 7.1
2017 年：幼稚園から小 6 まで 対象者 657 人の DMFT = 7.7

日本の場合はほとんどが F の治療完了歯ですが、チェイ小ではほとんどが D の未処置歯です。チェイ小では一人平均 7 本以上のむし歯があります。また乳歯のむし歯治療はほとんど行われていません。

12 才時 DMFT (永久歯列が完成する 12 才が世界的比較対象) は、2015 年；6 年生 4.0、2016 年；6 年生 4.3、2017 年 6 年生 4.0 になっています。なお、日本国内では 1.0 を切っています。

チェイ幼稚園・小学校の児童のむし歯の本数による割合を表にしました。幼稚園から小 6 までの 657 名中：むし歯のない者は 7.7%、むし歯罹患率は 92.3% (表参照) です。

むし歯本数	0本	1~5本	6~9本	10本以上
幼稚園 %	7	18	28	47
1年生 %	6	8	29	57
2年生 %	2	11	29	58
3年生 %	5	23	33	39
4年生 %	6	23	42	29
5年生 %	10	40	33	17
6年生 %	18	52	21	9
平均	7.7%	25 %	30.7%	36.6%

(統計処理：椋梨兼彰)

最後に、歯科検診票と手鏡を提供して下さった藤沢ロータリークラブ、歯ブラシ、歯磨剤、タオル、消毒薬などの支援物資を提供して下さった (株) 明治、タカラベルモント (株)、ライオン (株)、SUNSTAR、(株) トミヤ、伊藤歯科器材 (株)、GSK グラクソ・スミスクライン (株)、クロスフィールド (株) (敬称略) に感謝申し上げます。

第 28 回かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン プロジェクト・アシスタント 米山 遥香

4月15日(日)に開催。アンコールフット国際ハーフマラソンで優秀な成績を収めたラット・チャンさん(男性・31歳)が招待され5kmに参加しました。当団体スタッフのコール・ソティアラーさんが通訳として同行、JICA短期ボランティアとしてカンボジアでHGの障がい者スポーツ事業に携わっていた中村ひかるさんが伴走を。大会後に

は上野にて東日本会員交流会が行われました。翌16日は順天中・高を訪問、中学3年生の社会科の時間に出前授業をし、ランナーからカンボジアの歴史や自身の生い立ち、スタッフからHGのカンボジアでの活動について話しました。皆、真剣に聞いてくれ、将来は国際協力の道に進みたいという生徒もいました。



ゴール後の選手と伴走者

第 38 回篠山 ABC マラソン

3月4日(日)当日はとても暖かく、最高気温も21℃まで上がりました。元カンボジア障がい者陸上競技連盟で、現在岡山に語学留学中のチョーン・ピセイさんが、篠山市の皆様にかンボ

ジア支援のお礼の挨拶をしました。ランナーの方々にはHGグッズ販売にもご協力いただき、HG20周年記念Tシャツは大変好評でした。



第 8 回淀川国際ハーフマラソン大会

3月18日、大阪の淀川河川公園にて「カンボジアの学校に体育用品を送ろう」の支援レースとして開催されました。開会式では、チョーン・ピセイさんが参加者に支援のお礼を申し上げました。

朝方は肌寒いぐらいでしたが昼頃には暑くなる中、ファミリー3Km、10Km、ハーフに、4,500人弱のランナー

が参加しました。本年も多くのランナーの方々にグッズ販売並びに募金にご協力頂きました。終了後、29名が参加して西日本会員交流会が行われました。代表のHG活動報告に続き懇親会に入り、田中玲子会員のハーモニカ演奏に聞き惚れ、自己紹介やお互いの近況を話しました。



アニモチャリティーバザー

代表の生家のあるアニモミュージアムで、地域の人々の交流を目的に始めて15年。今ではHG支援バザーとして多くの方々からバザー用品を提供して頂き、すっかり地域に根付いています。

5月4日、前夜の荒れた天気も朝に

はすっかり止み、オープニング・ライブの田中玲子さんのハーモニカによる「ツイゴイネルワイゼン」の演奏に多くの拍手を頂きました。

バザーの収益金は、HGを通じて「カンボジアの子ども支援」に充てられます。



第 17 回 Arimori Cup

5月20日、北海道むかわ町穂別で、「喜びを力に」を基本コンセプトに開催。有森代表が今年もゲスト参加しました。快晴に恵まれ、下は4歳から上は86歳までの333人が、3km及

び3km親子、5.2743km、10kmの3コースに分かれてゴールを目指しました。中学生による実行委員会が運営に当たる全国でも珍しい手作りの大会です。



第 34 回みしま西山連邦登山マラソン大会

5月27日、快晴の中、長岡市三島体育センターをスタートとゴール地点とし、HG長岡クラブの協力のもとチャリティ大会として開催しました。

小学生2km、中学生3km、一般11km、ハーフの種目に、小中学生400人(校内授業として)を含む930人

が参加。11kmとハーフのランナーは、この大会独特の高低差の激しいコースに挑みました。

三島商工会女性部の振る舞い「どん汁」、「かたくり太鼓の会」の激励演奏、代表のコース内応援等で大いに盛り上がりました。



9か月のインターンを経て

藤 はな

2017年～2018年に、HGのインターンとして、NCCCでスタッフの補佐や子ども達への教育活動を行いました。

インターンでの活動を、二つ紹介します。

(1) 12歳以上の子ども達に向けて、「大人になるカラダのしくみ」というテーマで、数回、授業をしました。成長期にある体の中で起こっていることと青少年を取り巻く環境について、感染症や性被害の危険性にも触れながら伝え、カンボジア人スタッフからは自らの妊娠と出産のエピソードを話してもらいました。最後の授業では、子ども達に将来図を描いてもらい、学びと自分の将来をつなげられるようにしました。自分のからだについて知ることが、健康と人権(自分を大切にすること)につながり、そして豊かな人生につながります。また、子ども達がスタッフに、性について相談しやすい環境を作っていくことにもつながれば良いと思います。



(2) 社会や職業を知る機会が少ない子ども達に、様々な仕事・進路があることを知ってもらうために、カンボジア人スタッフと協力して、職業の紹介、NCCCのOBや地元の職業訓練校からの出張授業などを行いました。子ども達の将来の夢や、卒業後にやりたいことの希望が具体化するなど変化が見られました。

このインターン経験を通して、国際協力は、目の前の人に手を差し伸べるとき、本当に人々や国のためになるかを長期的に見る目と、複雑に絡み合っている貧困の背景を広い視野を持ってとらえていくことが必要だということ学びました。

滞在中、体調を崩すことが多かったのですが、近所に住むカンボジアの人達に助けられました。支援する人・される人という関係ではなく、誰もが誰かに支えられながら、誰かを支えようとしているということを、カンボジアの人々に教わりました。

今後は、想いだけでは役に立てないので、一度海外での国際協力からは距離を置いて、日本でキャリアを積んでいきます。カンボジアでの学びはきっと今後の道でも貴重なものとなると思います。

主な活動報告 (2018 年前半)

- 1/19 -3/31 筑波大学より JICA 短期海外青年協力隊受入れ(プノンペン)
- 1/22 岡山学芸館清秀中学校研修受入 (シェムリアップ)
- 1/24 岡山せとうちライオンズクラブ例会
- 2/12-14 JICA 草の根・中学校体育教育支援事業 WS(プノンペン)
- 2/20 スカイク交流 (NCCC と第三藤田小学校)
- 3/4 篠山 ABC マラソン (兵庫)
- 3/5-7 JICA 草の根・中学校体育教育支援事業 WS (バタンバン、スヴァイリエン)
- 3/10,11 第2回バラ陸上競技会 (プノンペン)
- 3/18 淀川国際ハーフマラソン (大阪)
HG 西日本会員交流会
- 3/19-21 カンボジア教育省年次総会にて報告 (プノンペン)
- 4/15 かすみがうらマラソン (茨城・土浦)
HG 東日本会員交流会
- 4/22 百間川ふれあいフェスタ (岡山)
- 5/4 アニモ・チャリティバザー (岡山)
- 5/11 アニモの会 (岡山)
- 5/20 Arimori Cup マラソン大会 (北海道・穂別)
- 5/21-23 JICA 草の根・中学校体育教育支援事業 WS(プノンペン)
- 5/27 みしま西山連峰登山マラソン (新潟・長岡)
- 6/6-8 JICA 草の根・中学校体育教育支援事業 WS (プノンペン)
- 6/17 川俣ロードレース大会 (福島)
- 6/22 HG 総会・理事会・会員交流会 (岡山)
- 6/30 親子チャリティマラソン in 軽井沢おもちゃ王国 (群馬)

主な活動予定 (2018 年後半) 変更あり

- 8月 岡山学芸館高校への留学生来岡
- 9/3 岡山県技術移転プログラム Local to Local 研修員来岡
- 9月 HG 長岡クラブ総会 (新潟)
- 9月 HG 福島クラブ総会・交流会 (福島)
- 9/9 たまの親子チャリティラン in おもちゃ王国 (岡山)
- 9/29 TAO30 周年記念代表講演 (大阪)
- 10/23 チャリティゴルフコンペ
- 11/29-12/3 HG スタディツアー (シェムリアップ)
- 11/30 チェイ小学校祭り (シェムリアップ)
- 12/2 アンコールワット国際ハーフマラソン (シェムリアップ)
- 12/ 山陽女子ロードレース (岡山)

第8回 アニモの会

5月11日(金)に開催。アニモの会とは、有森代表の活動報告並びに岡山で活躍するスポーツチームが集まり岡山の企業にPRするイベントです。有森代表のHG活動報告後、岡山シーガルズ、トライフープ岡山、吉備国際大学シャルム、グロップサンセリテ World AC、岡山リベッツ、ファジアーノ岡山が、昨シーズンの報告やこれからの抱負を熱く語りました。各チームから提供され



た選手のサイン入りチームユニフォーム等の抽選会もあり大変盛り上がりしました。最後に、岡山を全員で元気にしていこうと会を締めました。

事務局からのお知らせとお願い

- HG 会員募集！ 活動に賛同してくださる会員さんを募集しています。ぜひお知り合いの方をお誘いください。
- ボランティア募集！ 本部事務局では、ボランティアを随時募集しています。簡単な事務作業からイベントのお手伝いなど、ご都合に合わせてご参加いただけます。
- 書き損じ葉書・未使用の切手・クオカード・商品券を集めています。本部事務局までお送りください。活動のために有効に使わせていただきます。

第 20 回総会並びに交流会を開催

6月22日午後6時より岡山NPOセンターきらめきプラザにて総会が開催されました。2017年度事業報告・決算報告、2018年度事業計画案・予算案が承認可決されました。今年は20周年という節目を迎え、会員の皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。スタッフ一同、本年度も充実した活動を実施できるよう取り組んで参りますので、更なるご理解、ご参加、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

総会後は同じ場所にて交流会に移り、一時帰国中の西山直樹東南アジア事務所長と手束耕治副所長が、会員様に事業報告や現地の様子などをお話させていただきました。

※HGは認定NPO法人ですので、寄付金は、個人・法人を問わずすべて寄付控除が受けられます。相続または遺贈による寄付には相続税が課税されません。

運動会データベース (DB) 開設

カンボジア王国の小学校体育授業を充実させるために、SNSや動画を活用しながら授業イメージをシェアする必要があると以前から考えており、この度、カンボジア王国教育省、認定NPOハート・オブ・ゴールド、岡山南ロータリークラブ、そして岡山大学が連携して運動会DBを開設しました。

この運動会DBは、体育教育が普及していないカンボジアでは、写真と教科書だけではイメージがわからないため、1分間ほどの競技の実施動画を視聴し、各学校で運動会を実施するための参考になります。動画は、あくまでも参考であり、各学校が状況や環境にあわせてアレンジすることを期待し、さらには、教育省—教員というつながりだけでなく、教員—教員のつながりなど多様なネットワークを構築し、新しい体育授業の充実を期待しています。是非、皆様ご覧ください。

サイト⇒ <http://pecambodia.org/pesesp>



「第 23 回アンコールワット国際ハーフマラソン」は 2018 年 12 月 2 日 (日) 開催!